

坂本龍馬を思ふ

河野天籟

幕雲日を掩て日將傾かんとす

南海の臥龍帝京に翔る

一夜狂風幹を折ると雖も

維新の大業君に頼つて成る

【作者】河野天籟（一八六一～一九四一年）（文久二年～昭和十六年）明治後期の教育者・漢詩人。熊本県玉名市に細川藩医河野通伸（みちのお）の三男

として生まれる。本名は通雄（みちお）といい、天籟は号。明治十年の西南戦争に西郷軍に味方して参戦したが、大腿部に銃弾を受け戦場を退いた。その後、熊本師範学校を卒業した。小学校教員のかたわら作詩に志すこと四十年。詩風は自由自在で、漢詩百余編を集録した「孟浪餘滴（もうろううよてき）」を著す。昭和十六年五月没す。享年八十歳。

【語釈】\*幕 雲…幕府の衰え。作者の造語。 \*南海…四国の総称。ここでは土佐の国。 \*臥龍…伏している龍（りゆう）。「三国志」に「諸葛孔明

（しよかつこうめい）は臥龍なり」とある。龍馬を孔明になぞらえている。また世に知られていない大人物。 風雲児。 \*帝 京…天子のいる都。 京都。 \*維新…政治の体制が一新され改まる。

【通釈】幕府の力も落ちて今にも国運が傾こうとしているとき、土佐の風雲児、坂本龍馬が立ち上がり、新しい国づくりのため、大政奉還を推進すべく京都を駆け巡った。だがある夜、荒れ狂う風が大樹を吹き折るように、龍馬は明治維新を見ることなく凶刃（きょうじん）に倒れたが、その後、維新の大業が成ったのは、ひとえに龍馬の命を賭（と）しての働きがあったおかげである。

【備考】坂本龍馬の生涯は幕末の変動とともにある。郷土（こうし）という低い身分でありながら、勝海舟を師とし、海外に目を向け海援隊を創設した。後、薩長同盟を実現させて、維新の大業を完遂させる道を開いた。西郷隆盛をして「天下に有志あり。余多く交わる。然（しか）れども度量の大、龍馬に如（し）く者、未だかつて見ず。龍馬の度量や到底測るべからず」と言わしめたほどの人物である。国家構想の「船中八策」はとくに有名で、土佐藩主山内容堂を動かして大政奉還に導いたといわれる。京都の醬油屋「近江屋」で刺客によって暗殺された。三十三歳であった。

